

平成29年度 第6回政策推進会議報告

日 時 8月7日 9時28分～10時10分

場 所 4-1会議室

出席者 21人

【冒頭】台風5号の接近に伴う配備態勢について

危機管理安全局長から、本日10時30分に限定水防指令を発令予定である旨の連絡。

1 尼崎市総合計画 後期まちづくり基本計画(素案)に対する市民意見公募手続の実施について

企画財政局長から資料に基づき報告。

2 平成29年度普通交付税及び臨時財政対策債の概要について

企画財政局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・市税の実感としてはどうか。
- ・7月に入ってから個人市民税と固定資産税が若干増えており、当初予算よりは上振れする見込みである。
- ・当初よりも交付税が増えて臨財債が減るという非常に好ましい状況だが、要因は何か。
国の大綱で交付税を増やし臨財債を減らすと示されており、要因は分析できていない。
(市長)プライマリーバランスの目標が全然達成できないので借金を気にしているのかもしれない。ただ、交付税は実感として締まってきている。私が就任して以来、交付税で扶助費をしっかりと見てもらえた関係もあり、予算決算で比較すると歳入が上振れ、それが結果的に当初予算上の収支不足を消し込み決算で収支均衡という姿が比較的続いていた。しかし昨年度あたりから歳入が当初の見込みどおりということが続いており、当初予算では数十億単位で収支不足が出ているなかで、今までのように決算ベースで収支均衡にはならないかもしれないという厳しい状況にある。

29年度は当初予算で27億5千万円ほどの財源対策が必要となっている。これは先行会計繰出金を除けばほぼ収支均衡となるよう予算を組んだものである。この27億5千万円のうち、例年であれば交付税の上振れで消せる部分があるが、当初予算とほぼ同額に決まったので、最終的には市税の上振れと歳出の不用額によって消せるかどうかということになる。

- (市長)当初予算ベースで収支不足を縮めていかないといけないのは、先行会計があろうがなかろうが当然のことなので、引き続き頑張っていきたい。

3 尼崎市総合治水対策基本ガイドラインについて

都市整備局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) これからいろいろな施設の整備や開発をするときに、こういうことを組み込んでいくのは非常に大事である。例えば尼崎東高の跡地活用では、地元説明会や市民検討会の意見もあり、ハード面からの防災機能の強化が非常に大きな要素となった。限られた財源の中ではあるが、優先順位をつけ、費用対効果や場所柄を考えながら着実にこういった治水のための機能を盛り込んでいく必要がある。やはり内水被害が非常に多発しているエリアとそうでないエリアなど、いろいろな要素があると思う。

(市長) 各市町の具体的な取り組みについては、年度ごとに県が集計しているか、している。

(市長) 学校の校庭に水を貯めるというのは、グラウンドが水面になるようなイメージか。雨が降ったときに一時的にグラウンドの排水管を絞り、自然に水が貯まるようにする。ただ、双星高校などで行っているが、これまで顕著に貯まったことはないと聞いている。戸の内公園やもすりん橋公園などの新しい公園についても、すべて貯められるように整備している。あとは支所等の建替えにおいても貯留施設を整備している。

(市長) 要するに下水管に水を流しきれないとマンホールが浮いて溢れてしまう事態になり、内水で被害が出てしまう。事前レクするときになるほど思ったが、夜な夜な雨が降るときにお風呂の水を抜くのを雨が過ぎるまで待つてほしいと呼びかけるのも効果がある。学校の排水についても、学校の外に出さずに中に貯めておいて、雨が過ぎてから排水しようということ。そういうことを皆が少しずつ持ち寄ることで負荷を平準化させるというのが流域対策の基本なのかと思う。私たちは下流なので、実は武庫川沿いなどは上流のほうで随分ご協力いただかないと効果が出ないということになるが、私たちもしっかりと取り組み、いろいろな呼びかけをしていけばいい。

武庫川の上流域や藻川・猪名川のほうはこれ以上もう流せないということになっており、そうならば貯めるしかない。今は6年確率降雨に対応できる施設を10年かけて42から51に増強しているところだが、浸透管を作るなど10年確率降雨への対策も進めている。

(市長) 県のガイドラインに沿って尼崎市でもこの度ガイドラインができたので、周知をお願いしたい。

4 その他

ひと咲きまち咲き担当局長から、みんなのサマーセミナー2017について報告。

ひと咲きまち咲き担当局長から、尼崎城応援ポロシャツについて報告。

危機管理安全局長から、尼崎市自転車のまちづくりフォーラムについて報告。

以上